

2020年 7月

2020年9月5日発行

NPO 法人 わっか

月次報告書

21



だけれども、まるごと受けとめられる社会をつくる

わかっかは、だけれども、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままに過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が
少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない

社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、

まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、

子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、

さらには、地域社会においても、

その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。

また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り

仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

「わかっか」は、2014年3月から活動をおこなっています。

活動当初は、月に1回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。

遊び場に来てくださる方の声に応えたくて2015年7月から、古民家の開放をはじめました。

毎週月曜日の放課後、日曜日は月に1、2回開けることから始めた古民家開放は

わかっかを通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。



若者へ毎日とどけるお弁当

わっかでは

毎日、若者へ手作りの

お弁当を届けています。

じゃがいもをたくさん頂いたので

コロツケ、ポテトサラダと

じゃがいもづくし。

親子ほど離れてもいないけれど

時折、冗談まじりに「ママ」と呼ぶ

本当は甘えたいのに甘えられない

そんな思いが少しにじむ。

3

私たちは、お弁当を毎日、手作りし

それを配達することを通じて

若者とつながり続けています。

毎日のお弁当と、

お弁当をつくる

あすかさんの言葉から

若者との日々のことを

お伝えします。



お弁当はお肉が入れやすいけど
バランスを考え、
たまにはお魚も。
卵焼きには好きなネギを入れて
いるの気づいてくれたかなー。



地元の事業所さんが「購入」と
いう方法で支えてくれました。
若者に直接関わらなくても購入
という形でも支えることができ
ます。

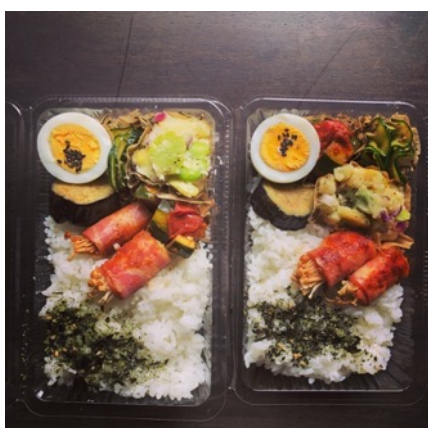


わっかに時々来てくれる
大学生と食レポをしました。
よかったら、見てください

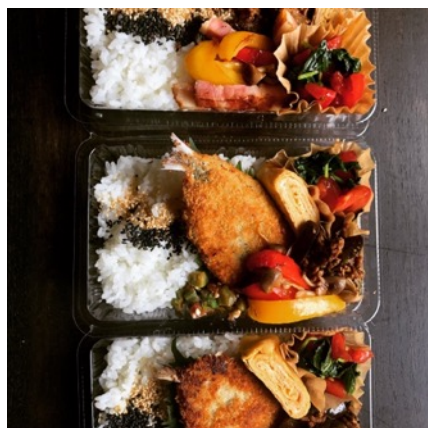
youtu.be/1gFrrVdz1j4



「食卓」「団欒」から程遠い
子供時代を過ごしてきた彼らに
とって食べ物を無事に口に含み
喉を通し、胃まで届ける事が最
重要だった。
菜葉をみれば「ほうれん草」
固まりをみれば「お肉」か
「魚」色んなモノに触れて欲し
いという思いからなるべく多品
種のおかずを入れられるように
しています。

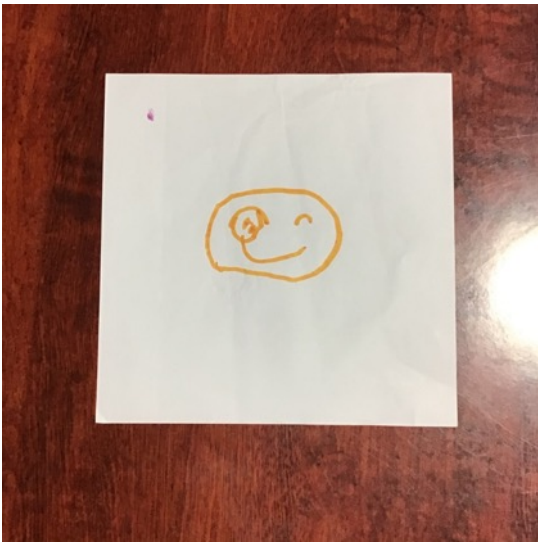
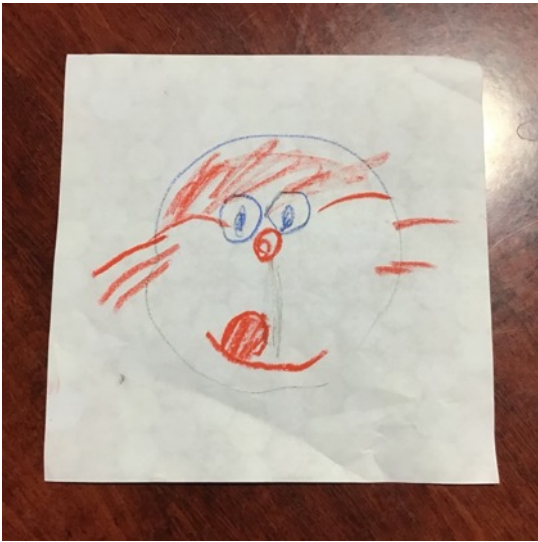


「あ、お母さんの味だ」
家族の自死に、苦しみもがいて
いる時に会った若者。
朝、目覚めると悲しみがやって
くるから眠れないと悩んでい
た。
「懐かしい。また作って」
思い出にかわった瞬間だった。



手作りにこだわっているのでは
ないのですが、手が抜けられな
い1つとして「忙しいのに無
理させてるかな」「自分の為
に時間とらせてるな」と、繊
細な彼らは気にして、気を遣
い、見えない壁をつくっていつ
てしまう いつも、余裕で暇で
お気楽である事が大切だと心に
銘じ、日々の活動に精進してい

子どもたちが、
わっかに
のこしたもの



放課後児童クラブ さかっこクラブ



子ども達は、本当に様々な姿をボク達に見せてくれる。まだ、生まれて数年の命の中で懸命に生きる姿をありありと見せてくれる。そんな彼らに、ボク達大人はどう見えているのか。

ボクは、その昔、子どもだった頃、大人は絶対的な存在で逆らえない存在だと思っていた。だって、子どもにあれこれ指示したり、説教したりするのだから、さぞかし立派なものなんだろうと思ってた。だから、早く大人になって、同じ目線に立ってやるって考えていた。

その自分は子ども達にどう見えているのだろうか。自分の関わり方は、子どもを追いつめたり、傷つけたりしてないだろうか考えていることがある。

人によって、言葉の重みは違う。同じ言葉でも捉え方は千差万別全く違う。じゃあ、相手が傷つかないように言葉を選びきることはできるのだろうか。それは、とても難しい。態度や対応だってそうだ。あの子のときには上手くいった事も、他の子のときには上手くいかない事だってある。

そもそも、どういう心持ちで子どもと向き合うかでも全然子どもの反応は違ってくる。指導的なスタンスでいると子どもはその様に接してくるし、近所のお兄ちゃん的なスタンスでいるとその様に接してくれるのが子どもだ。大人でもそうかもしれない。自身が、相手とどう向き合おうとしているかで、相手のレスポンスは明らかに変わってくる。大人は素直じゃない場合が多いから、そこら辺がわかりにくいことも多いが。

ボク達大人が子どもとどう向き合うか、その思い、スタンス、それはとても大切なことだ。言葉を選ぼうとしたり、対応などの方法だけを変えようとしても、それは大人自身もしんどくなるだけで、結果、子どももしんどくなることになってしまう。

子どもと向き合うとき、自分に正直に、自然体で、優越感なく、一人の人間として向き合うこと、そして、押しつけではなく、一人の人間として思いを伝えること、それが大切なだろうと思う。

8月24日月曜日。まだ陽が上りきる前、午前8時の大垣駅。学校へと向かう学生服姿の高校生と、通勤途中であろうスーツ姿の人たちでごった返している。

そうした喧騒に包まれながら、駅から出ていく人たちとは反対方向に向かう。スーツ姿の人たちに包まれる中で、ゆるやかな私服姿でいると、まるで社会から疎外されたような感覚に襲われる。

こうした同一性がある服装の集団に包まれていると、いかに平日の朝からふらふらとしている大人が特異であるかが分かる。特に大都市圏のように生活様式の多様性がある場所ならまだしも、よきにせよ悪きにせよ目立つのだ。

岐阜でお世話になっているある人が「社会には変な大人と、暇な大人が必要だ」と話しをされたことがあるが、豊かな社会というものは、そうしたものが担保されていることなのかもしれない。そして、たとえスーツを着ていたり、学生服を着ていたりして同じように見えたとしても、人はそれぞれのライフヒストリーをもって生きていく限り、まったく違う個なのだ。たとえ同じように見えたとしても、それは見えていないだけ。そんなことを考えながら、米原市のNPO法人わかへと向かう。米原駅から徒歩3分のわかへと到着すると、そこには既に寝ている学生の若者と、振角がいた。平日の朝から寝ることができると、それを担保する振角がいる。

さて、2016年に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」の中では、その16頁に「地域共生社会の実現」として、以下のような文言が登場する。『子供・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」を実現する。』

Maki Channel

第5回

佐藤真紀

このため、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する。

また、寄附文化を醸成し、NPOとの連携や民間資金の活用を図る。』と。これを読んだ時に少し、しんどいなと思った。特に『地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる』という部分だ。誰しもが役割を持たなければいけないのだろうか。もちろん、役割を持つことによって前向きに捉えることができる人もいるだろうが、役割を持つことによってストレスを感じ、しんどい思いをする人もいる。閣議決定された地域共生社会の実現には、役割を持たないもしくは、持ちたくないという自由は保障されているのだろうか。少なくとも、これを読んだ私は「役割を強制的に持たされるのは嫌だな」と。さて、そんなことを考えながら午前中を過ごしていた。午後になって起きてきた若者へ率直に聞いてみたら「ごろごろしてるって役割はないの?」、「ご飯もらえたら、それでいいよ。特にしゃげおにぎり」と笑顔で答えてくれた。そして、振角は「その枠には入りたくない。一億の一億人分の名前を言ってから言え」と答えた。それぞれおもしろい回答だなと思う。

そうなんだよね。「地域」や「共生」といった言葉は、行政から押し付けられるものではなく、人の日常生活の営みの結果としてしか生まれてこない。けっして「地域」や「共生社会」というフレームが最初からあるわけではないのだ。そうした意味において、市民サイドも押し付けられた言葉をそのまま受け入れるのではなく、私たちがそうした言葉に対して自分なりの意見なりを、もつことが求められているのかもしれない。

ともあれ、2人からウィットにとんだ答えをもらったことで、人の多様性の保障はこれからも大切にしていきたいことだと思う。そして、その日常生活の延長線上にごきげんに生活ができる人が増えるといい。

佐藤真紀さんのプロフィール @19hz(Twitter)

現場から現代社会を思考する/OfficeJUN/大学院生/NE→フリーのソーシャルワーカー/地域:東京,岐阜,滋賀/領域:地方自治,若者,子ども,虐待,生活困窮,学校,女性,LGBTQ/元学校の中の人

居場所づくり事業



毎週月よう日の放課後に必ずひられる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

月ようわっか 毎週月よう日 15:30 ~ 20:00

子ども **36** 名 (**26** 名) おとな **9** 名 (**0** 名)

() 内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

6日 子ども **11** 名 (**8** 名) 大人 **2** 名 (**0** 名)

メニュー： ごはん、肉じゃが、ちくわと海藻炒め、きゅうりのごま油づけ

13日 子ども **11** 名 (**12** 名) 大人 **3** 名 (**0** 名)

メニュー： ごはん、コロッケ、ポテトサラダ、フライドポテト

20日 子ども **13** 名 (**12** 名) 大人 **3** 名 (**0** 名)

メニュー： ごはん、わかめと豆腐の味噌汁、肉じゃが、ピーマンのおかか和え

27日 子ども **0** 名 (**0** 名) 大人 **0** 名 (**0** 名)

メニュー：

居場所づくり事業



平日わっか 毎週火～金曜日 13:00 ～ 17:00

子ども **31** 名 おとな **8** 名

毎年、七夕の時期になると短冊をいただきます。

短冊を飾る笹を近くの保育園の裏から貰ってきて、わっかにおきました。

少年に「何か飾りをつけたいねえ」と相談すると、飾り付けの道具をもってきてくれました。

そして、近所のおばあさんたちに短冊を「書いてください」と持って行って

それを、おばあさんが古民家に持ってきてくれたら、飾り付けをしてくれました。

去年も古民家に設置して願い事を書いてくれました。

毎年、こうやって行事を一緒にできることが、うれしいです。

居場所づくり事業



かめラボ 金曜日 17:30 ~ 19:30

もともとは別の建物で行っていた事業を5月から古民家で行っています。

古民家は、ただ開けているだけで、集う人が自由に過ごすことのできる場所。

そこに、基本は一緒に過ごすのだけれど、子どもたちがやりたいと言ったことを

周囲の大人がとことん応援しようという『かめラボ』を入れるとどうなるか、

雰囲気は壊れないかなと注意しながら、行いました。

それでも、わかのもつ雰囲気、誰でも自由に過ごせる、ほっとできる場というのが

『かめラボ』という事業も受けいれているように感じました。

ここにきてくれる子どもたちと、これからも一緒に時間をすごしながら

したいことを応援できたらと思います。

居場所づくり事業



日ようわっか 日曜日 10:00 ~ 15:30 子ども **16**名 おとな **9**名

この日は、以前の月次報告でも書かせていただいたんですが

お弁当作りをしてくださった「古沢さん」が、パン作りをしてくれました。

慣れた手つきでパンをくるくるっ！とロールパンやカレーパンの形にしていきます。

子どもたちは家からもってきた、自分でいれたい具材をくるんでいきますが、

チョコレートが飛び出たり、形もいろいろ。

でも、みんなでそれをたのしみながら見て、一緒に作って子どもたちも

やりたいように作れて、とってもいい時間でした。

やりたいようにしている子どもたちの表情は素敵です。



物品でのご寄付 **3** 名

お菓子（1名）
漫画、本（1名）
じゃがいも（1名）



マンスリーサポーター **18** 名

（今月あらたに2名の方がサポートくださいました）

大浜麻紀子、福地真路、後藤基志、マコトヤ、佐藤真紀
佐藤桃子、廣部奈緒美、前田諭、藤澤彰祐、石田智子、佐藤笑代
三輪恵美、南出吉祥（敬称略）



都度ご寄付 **1** 名

お弁当を購入くださった方が、お弁当代に上乗せしてくださいました。



助成・補助団体 **10** 団体

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社
真如苑、社会福祉法人 米原市社会福祉協議会、
公益財団法人 信頼資本財団、一般社団法人 全国食支援活動協力会
公益財団法人 さわやか福祉財団、社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
NPO 法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ
（敬称略 2020.8.25 現在）



編集後記

レイアウトを変更して3回目の
月次報告書をお届けしました。

今年の夏も暑いですが、とっても暑い。

古民家開放をはじめてもうすぐ6年になります。

当初は、夏でも窓を全開にして扇風機をまわすと
涼しく、「古民家ってすごいね」と話していました。

しかし、昨年度から窓をあけて扇風機（5台）を
まわしても、暑くて子どもたちと過ごすと

熱中症の恐れがあると判断し、開けられない日が
できました。

ここに来てくれる子どもたちには申し訳ないなど
思いつつも安全面を考慮しました。

来年度も暑さが和らぐことはないんだろうなど
思うので、古民家にエアコンをなんとかして
設置しようと現在、思案中です。

この編集後記は、誰もいない古民家で

扇風機の風を独り占めして書いています。

それでも暑いです。

来年は快適な環境で書けたらなと思っています。

（だいのすけ）



マンスリーサポーターは
17名になりました。
引き続き、ご支援お願いいたします。

わっかの活動は、みなさまからのご支援・応援による“あたたかい思い”によってできています。

もともと2人ではじめた、わっかの活動ですが、みなさまのお力によって、できることが
少しずつ増え、集う人たちの思いに応えるように活動を充実させてきました。

ほんとうにありがとうございます。

もし、マンスリーサポーターをご検討いただける場合は、ぜひお話ししたいです。

Zoomで活動紹介など詳しくよりお伝えさせていただいた上で、ご寄付をご検討いただければと思います。

団体名	NPO法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059 (代表)
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	https://npo-wacca.org
Facebook ページ	こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	アカウント名 @NpoWacca